



平成27年9月関東・東北豪雨による被害状況

(2ページグラビア参照)

一般財団法人 日本防火・防災協会

台風第18号が9月9日（水）10時過ぎに愛知県知多半島に上陸した後、日本海に進み、同日21時に温帯低気圧に変わりました。その際、南から湿った空気が流れ込んだ影響で、西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となり、特に関東地方と東北地方では記録的な大雨となりました。

気象研究所の解析によれば、この台風の影響で多数の線状降雨帯が発生し、これが栃木県から茨城県にわたってかかり続け、記録的な豪雨となったものとしています。

気象庁では、9月9日から11日に関東地方と東北地方で発生した豪雨を「平成27年9月関東・東北豪雨」と命名しました。

1 被害の状況

10月1日現在、死者8人（宮城県2人、茨城県3人、栃木県3人）、負傷者78人となっているほか、全壊25棟、半壊14棟、一部破損94棟、床上浸水7,715棟、床下浸水13,304棟の住家被害となりました。亡くなった方の大半は、車や自転車などで自宅を出たまま行方不明となり、捜索により発見されたものの搬送先の病院や現場で死亡が確認されました。

2 避難の状況

宮城県では9月23日12時に全避難所を閉鎖したものの10月1日現在、茨城と栃木の2県11市町27避難所に746人が避難しています。

3 その他の状況

河川の被害状況は、国管理河川の利根川水系鬼怒川と宮城県管理河川の鳴瀬川水系渋井川等19河川で堤防が決壊、宮城・福島・茨城・栃木の各県を中心に67河川で氾濫し浸水被害が多数発生しました。

また、土砂災害は、土石流が宮城・福島・栃木・埼玉・千葉の5県24件、地すべりが宮城・栃木・岐阜・愛知の4県5件、がけ崩れが静岡・神奈川・福島・宮城等14都県120件発生しました。

医療施設関係では、茨城県の2病院が床上浸水で診療困難となり、同県の災害拠点病院に全患者を搬送しました。

社会福祉施設関係は、人的被害はなかったものの茨城・栃木・宮城等5県55か所で床上浸水、土砂流入等があり、保健衛生施設関係でも茨城県の2保健所が床上浸水等の被害がありました。

文教施設関係では、茨城・栃木・宮城・千葉等12県で、大学、高専、幼稚園、小・中・高の学校施設、社会教育・体育施設、文化施設等286件で、学校敷地の斜面崩れ、床上浸水、土砂流入、倒木等の被害がありました。

農林水産関係では、茨城・栃木・宮城・岩手・福島等25県から313億3千万円の被害金額が報告されています。主な内訳は、農作物が67億5千7百万円、農地や農業用施設が135億9千4百万円、林野関係100億1百万円、水産関係9億7千8百万円となっています。

地域での対応状況等については、次号に掲載します。